

きらきら雨降り わた 頌 子

家もきらい。

学校もきらい。

だから、わたしは道草をする。

傘を、持たずに。

草の葉の上に、きらきらした水玉。わたし

の髪の毛の先っぽにも。

わたしと草は、同じだね。

雨の冠は、きれいで、からだもこころも、

そっと涼しくしてくれる。

雨の神さまって、いるのかな？

視界は、雨の、レースのカーテン。

この雨の衣をまとう、神さまって、きつと

きれいで、とても優しい。

季節の、必要な時、雨を優しく降らせ、緑

を育て、虫を育て、夏の日ざしにそっと手渡

す。

わたしにも、今、雨が必要な。

だから、雨の神さまは、優しく雨を降らせ

てくれる。

そうして、手を差し伸べてくれる。

——こちらにおいで。いとしい子。

わたしはそっと、雨に向かって手を上げる。

ずっと小さいころ、だれかに抱き上げても  
らったように。

手を上げたら、抱き上げてくれると信じて  
いたころのように。

さらさらと、雨は降っている。

その時。

雨の中から、声が聞こえた。

——こちらにおいで。いとしい子。

あなたも、世界も、守ってあげよう。

ゆつくりと、雨の向こうから、日がさして  
くる。

すると、雨がひかかった。

きらきら雨降り。

ひかる雨を浴びられて、わたしはなんて幸

せだろう。

さっきの草も、わらっているみたい。

——心配しないで。いとしい子。

育っておいき。いとしい子。

きらきら雨降り。

ひかる、雨。

もう、わたしは、だいじょうぶ。

ほら。ずっと高いところで、虹がかかった。